
「膵切除における膵液瘻軽減に向けた技術の有用性に関する検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2014年1月1日から2023年10月31日の期間で、埼玉医科大学総合医療センター、肝胆膵外科（以下；当科）において膵頭十二指腸切除術あるいは膵体尾部切除術をお受けになられた患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

膵切除は腹部手術のなかでも難易度の高い術式とされており、軽いものから重篤なものまで、合併症の発生率が高いことが知られています。とくに患者さんの術後経過に大きな影響を与える合併症として「膵液瘻」があります。膵液瘻とは、膵切除後に残存した膵組織から膵液が漏れ出す現象で、約30～50%に発生する重要な合併症です。膵液瘻は、その後様々な他の合併症を引き起こし、なかには生命を脅かすこともあります。膵液瘻に対する予防方法は専門家のなかで数多く報告されていますが、いまだ画期的な手技がありません。当科は日本で有数の膵切除手術数を有しており、膵液瘻予防のために様々な試みをしています。それらの方法のなかで、患者さんの膵液瘻軽減に向けた方法を見つけ出すことが、本研究の目的です。

3. 研究期間

病院長の許可後～2024年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年1月1日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

当科における病院診療録の記載内容を用いて研究を行います。そのなかには、患者さんの身体的背景、病気の情報、検査所見、画像所見、手術記録、術後経過の詳細が含まれます。

この研究で得られた患者さんの情報は、当科において、研究責任者である別宮好文が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害

される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

膵頭十二指腸切除術または膵体尾部切除術をお受けになられた患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科

研究責任者 別宮好文

4. 試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学総合医療センター】 病院長

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科 二宮理貴（担当者）

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

埼玉医科大学総合医療センター

担当 肝胆膵外科・小児外科 二宮理貴

TEL：049-228-3620（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：膵切除における膵液瘻軽減に向けた技術の有用性に関する検討

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科
別宮好文